

# アトリエ 琉游舎 だより 97号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2021年1月27日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2月2日は

# 124年ぶりの節分



- 今年の節分は2月2日です。節分には毎年2月3日に各家庭で豆撒きや恵方（今年は南南東や南）を向いて巻き寿司を無言で食すると縁起がよいとされている行事が行われていますね。
- ところが今年は124年ぶりに節分が2月2日になるとのこと、節分は立春の前日と決められているので、立春は2月3日です。24節気の一つで立夏・立秋・立冬や春分・夏至・秋分・冬至などが他によく知られています。そしてこれらの季節は地球と太陽の位置関係によって定められているのです。詳しい理論は私には説明できないので省略しますが、今年の節分は124年ぶりに1日早いことは間違いなさそうです。気付くのが遅れて慌てて3日の日に豆撒きしても、鬼は家の中に居座ったまま出て行ってくれないかも知れませんね。ご注意を！
- もう一年も地球に居座って一向に出ていく様子のない鬼がいます。ワクチンや特効薬のない昔は、どうやってこの種の鬼を退治したのでしょうか。最近では、自粛要請が効かないと分かると、罰則を設けて強制的に言うことを聞かせようとする古手の鬼の声も聞こえて来ます。
- この鬼は昔から私たちの蒔く豆を食べて肥え太り、家の隅でいつも居眠りをしていますが、私たちの役に立たないので出て行ってくれなどと言ったとたん、棍棒を振りかざして威嚇を始めます。この古手の鬼と新手の鬼が覇権を争って共倒れしてくればよいのですが、、、
- 祈祷やまじないが無意味と分かっている、こういった鬼が家に居座わってしまったら神仏にすがりたくもなりますね。鬼を追い出すために、すがれるものはスガでもスガるか、あるいは諦めて鬼と共棲する方法を考えるか、今年の節分はどの鬼を追い出しましょうか。

## 2・3月スケジュール

			木	金	土	日
			28	29	30	31
			映画会 中止			
月	火	水	4	5	6	7
2月1日	2	3	映画会 中止			写経会 中止
8	9	10	11	12	13	14
	読書会 13時半		映画会 13時半		詩話会 13時半	
15	16	17	18	19	20	21
			映画会 13時半			
22	23	24	26	27	28	
	読書会 13時半		映画会13時半 居酒屋の会16時半			
3月1日	2	3	4	5	6	7
			映画会 13時半			写経会 13時半

栃木県に「緊急事態宣言」が出ている期間、琉游舎定例会は中止といたします。現在二月七日までがその期間にあたります。延長があった場合は改めてお知らせします。

年賀状に代えて寒中見舞いを出すようになって4回目の冬を迎えました。会社員時代に親戚友人の他に上司部下得意先へ会社・個人名義を合わせて出していた400通ほどの賀状は、宛名と文面は印刷でも一言添えるために労力と時間が大分割かれたことを記憶しています。賀状を出すことは半ば仕事であり義務と化していたのでしょ。今はもちろん義務で出す必要のない私信ばかりの賀状を頂き、寒中見舞いを送っています。そんな中、仕事を離れても頂くかつての仲間や友人からの賀状は嬉しいものです。クライアントの部長だった20歳年上の方からは「昔も、今も、ハシゴ好き、昔は飲み屋のハシゴ今は病院。」という30年来変らぬ自虐的かつユーモラスな賀状を頂きました。数年前に旧東海道を徒歩制覇していた家族は、今は日光街道にチャレンジしているようです。赤ちゃんはいつの間にか少年に、少年はいつの間にか青年に、「とうとう隠居しました」「最後のご奉公で農業委員会の会長をやります」「丑年なので今年は牛首山の写真です」「お店たたみました」「まだシブトク生きています」「いまだに現場・現役」365日間の皆さんのありのままの日々と、私の行いの毎日の間に往返信を介して、1年に一回ですが確かに一本の縁の糸が引かれているのが見えます。

面と面を向かい合わせて行う対話は、言葉の他に表情や声色間合い仕草などの身体すべてが伝達の道具となります。「電話やメールで済ませるな、すぐ行って謝ってこい」これは謝罪の基本です。早朝会社の開門前に門前で謝罪相手を待て。そんな昭和時代の会社員心得を伝授された私には、何でもメールやズーム会議で済ますことを良しとするコロナ時代のビジネススタイルに順応することは恐らくできないでしょう。距離や時間の障壁ですぐに面会できない時、かつては手紙を書きました。まだワープロが一般化していない時代は企画書も謝罪文も肉筆です。フォント（活字）に感情や情感を注入することは難しいことです。肉筆にある文字の躍動感や落ち着き、乱れや書き損ないにもそこに書き手の精神状態や意志が現れてくるに違いありません。とはいえ現代人は肉筆文字を書く機会が少なくなりました。かく言う私も年に一回の寒中見舞いに書き添える文言以外に、悪筆を言い訳にして肉筆文をしたためることはありません。そんな希少機会でも年に一回頂く賀状に添えられた肉筆の一言から伸びる縁の糸を、私は今年も有り難く受け取りました。

お釈迦様もキリストもソクラテスも孔子も本人たちは教えを文字に残しませんでした。直接対話を交わすことのできる範囲が活動区域だったのか、あるいは文字の使用が広く行き渡っていなかったことや、紙や筆が手に入りやすかったことが理由でしょうか。今に残る彼らの言葉は弟子たちが口伝し後に文字にして今に伝えてくれたものです。お釈迦様の伝道方法はひたすら歩き旅をし対話することでした。托鉢遊行のスタイルです。教えの伝達はどのような宗教や思想であれ、まずは足によって伝えられ始めたのです。この足による伝道の手段に書簡という新たな方法が加わった事情は、直接対話できない遠隔地の信者が持った、流布するまた聞きの教えへの疑問に答え、仲間割れや誤った解釈などを糺し誠める必要があったからでしょう。例えば新約聖書に集録されているパウロの心のこもったローマの信徒やコリント信徒への手紙が代表例です。

信者以外にはあまり知られていませんが、日本でも親鸞聖人や日蓮聖人の書簡集が宗祖の重要な教えとして読み継がれています。親鸞が弟子たちに送った書簡の40通ほど、日蓮は300通もの書簡が残されています。また驚くことに、日蓮の真筆の書簡は現在も多数保管されています。700年以上も前に頂いた手紙を今に至るまで虫に食われることなく大切に受け継がれてきた事実は、その中に書かれている教えを忠実に守り受け継いできたという証拠に他なりません。自分の考えを整理して執筆された書物形式に比べて、その手紙を書かなければならなかった状況の緊迫感や動機などが迫真を以て文字とともに後世の者にも強く訴えてきます。

親鸞、日蓮の書簡に共通することが2点あります。「この文をもて、ひとびとにもみせまいらせたまふべく候」注1「一切の諸人これを見聞し、志あらん人々は互いにこれを語れ」注2二人とも代表者宛に送っていますが、この内容をみんなで回し読みして語り合いなさいと言っています。もう一点は「方々より御ころざしものども、かずのままに、たしかにたまはりさふらふ」注3「雪のごとく白く候白米一斗。古酒のごとく候油一筒。御布施一貫文。わざわざ使者をもて盆料送給候」注4いずれも布施として頂いたものへの御礼から手紙が書きだされています。鎌倉時代になって仏教は初めて庶民のものとなりました。それまでは朝廷や貴族たち権力者のためのものでした。朝廷に正式に承認されていた僧侶は主に精神面から国家守護を担う祈禱担当公務員だったのです。しかし祈禱では民衆は救われないことを当の民衆はよく理解していました。戦乱、飢饉、自然災害、疫病が続く中で、民衆は自分たちの精神的リーダーを切に望み、自分たちのリーダーに直接疑問点をぶつけそれに対する回答を得ることで、「信」を強固にしていきました。書簡を通して双方向の縁の糸が太く長く強く編み込まれていったのです。自分たちのリーダーとの縁の太い糸を仲間たちで共有することは必然です。そしてその縁に感謝しお礼を差し上げる行為もまた必然です。親鸞、日蓮の書簡に共通する2点は、彼らの宗教が民衆からの切なる願いから必然的に生まれたことの確たる証しと私は考えます。

言葉は生き物です。言葉のやり取りによって理解し合いそれが行動となった時に初めて言葉は命を持ちます。一方的な言葉は理解や共感を生むこともなくわたしたちの頭上を虚しく通り過ぎて行くだけ。それは言葉が死んでいるからです。今、為政者がどんなに要望や自粛を語っても誰も死んだ言葉と琉游舎：戸井 出琉・恭子縁を結ぼうとは思いません。言葉の力を信じている者同士は、賀状の簡潔お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152な言葉にも縁を結べるのです。それは言葉が命を持っている証しなのです。矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850